

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-114663**(P2006-114663A)**(43) 公開日 **平成18年4月27日(2006.4.27)**

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
H01L 51/50	(2006.01)	H05B 33/14	B	3K007
C09K 11/06	(2006.01)	C09K 11/06	660	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号	特願2004-299928 (P2004-299928)	(71) 出願人	000001007 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(22) 出願日	平成16年10月14日 (2004.10.14)	(74) 代理人	100096828 弁理士 渡辺 敬介
		(74) 代理人	100110870 弁理士 山口 芳広
		(72) 発明者	鎌谷 淳 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
		(72) 発明者	岡田 伸二郎 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 有機エレクトロルミネッセンス素子及びこれを用いた表示装置

(57) 【要約】

【課題】 新規な発光材料を用いた有機エレクトロルミネッセンス素子を提供する。

【解決手段】 単体状態における発光波長が溶液中の発光波長よりも短波長である有機化合物を発光材料として用い、該発光材料に該発光材料よりも発光層中の含有量が低くなるように導電性材料をドーピングして発光層を形成し、電極間に挟持して素子を構成する。

【選択図】 なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一対の電極間に、発光層を含む少なくとも一層の有機化合物層を挟持した有機エレクトロルミネッセンス素子であり、該有機化合物層において、発光層が少なくとも２種類以上の化合物からなり、最も高濃度の化合物が発光材料であり、単体の固体状態における発光波長が溶液中での発光波長よりも短波長である有機化合物であることを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子。

【請求項 2】

前記発光材料が、金属錯体である請求項 1 に記載の有機エレクトロルミネッセンス素子。

10

【請求項 3】

前記金属錯体の中心金属が Cu, Re, Ru, W, Ag, Au のいずれかである請求項 2 に記載の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【請求項 4】

前記金属錯体がリン光発光性金属錯体である請求項 2 または 3 に記載の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【請求項 5】

上記一対の電極間に電圧を印加することにより上記発光層が発光する電界発光素子である請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の有機エレクトロルミネッセンス素子を用いたことを特徴とする表示装置。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、平面型の表示装置に用いられる有機エレクトロルミネッセンス素子とこれを用いた表示装置に関する。

【背景技術】

【0002】

有機エレクトロルミネッセンス (EL) 素子は、高速応答性や高効率の発光素子として、応用研究が精力的に行われている。その基本的な構成を図 1 (a)、(b) に示した (例えば非特許文献 1 を参照)。図 1 中、11 は金属電極、12 は発光層、13 はホール輸送層、14 は透明電極、15 は透明基板、16 は電子輸送層である。

30

【0003】

図 1 に示したように、一般に有機 EL 素子は透明基板 15 上に透明電極 14 と金属電極 11 の間に複数の有機化合物層を挟持した積層体から構成される。

【0004】

図 1 (a) では、有機化合物層が発光層 12 とホール輸送層 13 からなる。透明電極 14 としては、仕事関数が高くなる ITO などが用いられ、透明電極 14 からホール輸送層 13 への良好なホール注入特性を持たせている。金属電極 11 としては、アルミニウム、マグネシウム或いはそれらを用いた合金などの仕事関数の小さな金属材料を用い有機化合物層への良好な電子注入性を持たせる。これら電極には、50 ~ 200 nm の膜厚が用いられる。

40

【0005】

発光層 12 には、電子輸送性と発光特性を有するアルミキノリノール錯体など〔代表例は、トリス (8 - キノラリト) アルミニウム (Alq3)〕が用いられる。また、ホール輸送層 13 には、例えばトリフェニルジアミン誘導体 (代表例は、ビス [N - (1 - ナフチル) - N - フェニル] ベンジジン (α - NPD)) など電子供与性を有する材料が用いられる。

【0006】

50

以上の構成を有する有機ＥＬ素子は整流性を示し、金属電極１１を陰極に、透明電極１４を陽極になるように電界を印加すると、金属電極１１から電子が発光層１２に注入され、透明電極１４からはホールが注入される。

【０００７】

注入されたホールと電子は発光層１２内で再結合により励起子が生じ発光する。この時ホール輸送層１３は電子のブロッキング層の役割を果たし、発光層１２／ホール輸送層１３界面の再結合効率が上がり、発光効率が上がる。

【０００８】

さらに、図１（ｂ）では、図１（ａ）の金属電極１１と発光層１２の間に、電子輸送層１６が設けられている。発光と電子・ホール輸送を分離して、より効果的なキャリアブロッキング構成にすることで、効率的な発光を行うことができる。電子輸送層１６としては、例えば、オキサジアゾール誘導体などを用いることができる。

10

【０００９】

【非特許文献１】Macromol. Symp. 125、1～48（1997）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【００１０】

有機ＥＬ素子は平面型の表示装置を構成する発光素子として着目されており、より多様な要求に応えるべく、その主要部材である発光材料の開発が急務となっている。

【００１１】

20

本発明の課題は、新たな発光材料を用いた新規な有機ＥＬ素子を提供し、素子の用途や製造工程、発光材料以外の部材等における選択自由度を向上することにある。

【課題を解決するための手段】

【００１２】

本発明の第一は、一対の電極間に、発光層を含む少なくとも一層の有機化合物層を挟持した有機エレクトロルミネッセンス素子であり、該有機化合物層において、発光層が少なくとも２種類以上の化合物からなり、最も高濃度の化合物が発光材料であり、単体の固体状態における発光波長が溶液中での発光波長よりも短波長である有機化合物であることを特徴とする。

【００１３】

30

本発明の第二は、上記第一の有機エレクトロルミネッセンス素子を用いたことを特徴とする表示装置である。

【発明の効果】

【００１４】

本発明によれば、従来にない新規な発光材料を用いた有機エレクトロルミネッセンス素子及び該素子を用いた表示装置が提供される。よって、該素子や表示装置の構成、製造における選択自由度が向上する。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１５】

本発明の有機エレクトロルミネッセンス素子（以下、「有機ＥＬ素子」と記す）の基本構成は、図１に示したものと同様であり、発光層１２以外の部材としては従来と同様である。

40

【００１６】

これまでの有機ＥＬ素子に用いられている発光材料は、単体の固体状態における発光波長が溶液中での発光波長と同等、もしくは長波長、または全く発光しない、のいずれかであった。これに対して本発明のＥＬ素子に発光材料として用いられる有機化合物は、単体の固体状態での発光波長が溶液中での発光波長より短波長になることを特徴としている。当該有機化合物においては、何らかの分子間相互作用によりこのような発光が得られていると考えられる。

【００１７】

50

ここで、固体状態とは結晶状態、もしくはアモルファス状態のいずれかを指し、溶液中の発光波長とはトルエン、クロロホルム、クロロベンゼン、メチルTHF、THF、アセトニトリル、メタノール、エタノール、水、DMFもしくはアセトンのいずれかの溶液を溶媒とし、 10^{-5} mol/l 以下の濃度で測定を行ったときの発光波長である。このような有機化合物の固体状態での発光を利用するためには、溶液のような低濃度で用いるのではなく、単体の固体状態に近い、より高濃度で用いる必要がある。具体的には50%以上の濃度で発光層に発光材料を混合することが望ましい。但し、100%濃度で用いると、発光材料の導電性、チャージバランスの問題で電流量が低くなるが、導電性材料を発光層にドーピングすることで、高効率発光を得ることができる。即ち、上記発光材料の固体状態での発光波長を維持したまま、高濃度で発光層に用いることができる。

10

【0018】

本発明において、発光層は少なくとも2種類の化合物から構成されるが、そのうち発光材料である有機化合物が最も高濃度に含まれる。発光層中の発光材料の濃度は50%以上が好ましく、より好ましく70%以上で、100%未満である。ここでいう濃度とは、質量%である。また、発光層に混合する化合物は濃度消光を抑制するためでなく、キャリアを輸送するためのドーピングとして用いる。本発明においては、発光層における発光材料とドーピング材料との濃度比をコントロールすることで、分光分子同士が隣接することにより発光状態が変化し、発光効率が低下する現象である濃度消光を考慮することなく、また、発光波長をほぼ維持したまま最適な電荷のバランスを有した素子作製を可能にし、高効率な素子を作ることができる。

20

【0019】

以上のような観点からも、本発明の有機EL素子は発光素子として適しており、該有機EL素子を用いて良好な表示装置を構成することができる。

【0020】

実際に、通電試験においても、本発明の有機EL素子は高い効率を示すことが判明した。

【0021】

本発明の有機EL素子は、固体状態での発光波長が溶液状態での発光波長より短波長である有機化合物を発光材料として用いるが、当該有機化合物として具体的には、金属錯体が好ましく、中心金属がCu, Re, Ru, W, Ag, Auである金属錯体が好ましく用いられる。中でもリン光発光性金属錯体が好ましい。該有機化合物の一例を下記表1、表2に示す。尚、表中の記号で示される構造式を化1、化2に具体的に示す。また、表中のPhはフェニル基である。但し、これらは、代表例を例示しただけで、本発明に用いる有機化合物は、これらに限定されるものではない。また、本発明の有機EL素子は、これらの有機化合物を含む発光層が、対向する2つの電極に挟持され、該電極間に電圧を印加することにより発光する電界発光素子であることが好ましい。

30

【0022】

【表 1】

NO	化合物	L又はL-L	L'又はL'-L'	L''	R1	R1'	R1''	R2	R2'	X
1	1	A	N	—	H	—	—	H	—	—
2	1	A	P	—	CH ₃	—	—	CH ₃	—	—
3	1	A	S	—	H	H	—	CH ₃	H	—
4	1	A	S	—	CH ₃	CF ₃	—	CH ₃	CF ₃	—
5	1	B	S	—	H	H	—	H	H	—
6	1	B	S	—	CH ₃	CF ₃	—	H	CF ₃	—
7	1	B	S	—	H	CF ₃	—	Ph	CF ₃	—
8	1	C	S	—	H	H	—	—	H	—
9	1	D	S	—	H	CF ₃	—	—	H	—
10	1	E	S	—	C ₂ H ₅	CF ₃	—	—	CF ₃	—
11	1	E	S	—	C ₆ H ₁₃	Ph	—	—	H	—
12	1	E	Q	—	CH(CH ₃) ₂	CF ₃	—	—	H	—
13	2	A	—	—	H	—	—	CH ₃	—	U
14	2	B	—	—	H	—	—	F	—	U
15	2	B	—	—	H	—	—	H	—	U
16	2	C	—	—	H	—	—	—	—	U
17	2	C	—	—	CH ₃	—	—	—	—	V
18	2	D	—	—	H	—	—	—	—	U
19	2	E	—	—	C ₂ H ₅	—	—	—	—	U
20	3	M	—	—	—	—	—	—	—	—
21	4	N	—	—	—	—	—	—	—	U
22	4	O	—	—	—	—	—	—	—	U
23	4	P	—	—	—	—	—	—	—	X
24	5	N	—	—	—	—	—	—	—	U
25	5	Q	—	—	—	—	—	—	—	U
26	5	R	—	—	—	—	—	—	—	U
27	6	A	S	N	H	H	—	CH ₃	H	—
28	6	A	S	T	H	CH ₃	Ph	H	CH ₃	—
29	6	B	S	N	H	CH ₃	—	H	CF ₃	—
30	6	B	S	T	H	CH ₃	Ph	CH ₃	H	—
31	6	C	S	T	H	H	OC ₂ H ₅	—	H	—
32	6	D	S	T	H	CF ₃	OC(CH ₃)	—	CF ₃	—
33	6	E	S	N	C ₂ H ₅	CF ₃	—	—	CF ₃	—
34	6	E	S	T	Ph	CF ₃	Ph	—	CF ₃	—
35	7	A	J	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	H	—	—
36	7	B	K	—	CH ₃	—	—	H	—	—
37	7	B	L	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	H	—	—
38	7	C	J	—	H	—	—	—	—	—
39	7	C	K	—	CH ₃	—	—	—	—	—
40	7	C	L	—	CH ₃	—	—	—	—	—
41	7	D	J	—	CH ₃	—	—	—	—	—
42	7	D	L	—	H	—	—	—	—	—
43	7	E	K	—	C ₂ H ₅	—	—	—	—	—
44	7	E	L	—	C ₂ H ₅	—	—	—	—	—
45	7	F	J	—	H	—	—	—	—	—
46	7	F	L	—	H	—	—	—	—	—
47	7	G	J	—	—	—	—	—	—	—
48	7	H	J	—	CH ₃	—	—	—	—	—
49	7	H	L	—	H	—	—	—	—	—
50	7	I	J	—	—	—	—	—	—	—
51	7	I	L	—	—	—	—	—	—	—
52	8	J	T	—	—	—	Ph	—	—	—
53	8	J	N	—	—	—	—	—	—	—
54	8	K	T	—	—	—	Ph	—	—	—
55	8	K	T	—	—	—	OC ₂ H ₅	—	—	—
56	8	L	T	—	—	—	Ph	—	—	—
57	8	L	T	—	—	—	OC ₂ H ₅	—	—	—
58	8	L	T	—	—	—	C(CH ₃) ₃	—	—	—
59	9	A	T	X	CH ₃	—	Ph	H	—	—
60	9	A	N	X	CH(CH ₃) ₂	—	—	CH ₃	—	—

【表 2】

NO	化合物	L又はL-L	L'又はL'-L'	L''	R1	R1'	R1''	R2	R2'	X
61	9	A	T	X	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	H	—	—
62	9	A	T	Y	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	H	—	—
63	9	B	T	X	CH ₃	H	Ph	H	—	—
64	9	B	N	X	CH(CH ₃) ₂	H	—	H	—	—
65	9	B	T	X	CH(CH ₃) ₂	Ph	Ph	CH ₃	—	—
66	9	C	T	X	CH ₃	—	Ph	—	—	—
67	9	C	T	Y	CH ₃	—	Ph	—	—	—
68	9	D	T	X	CH ₃	—	Ph	—	—	—
69	9	D	T	X	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	—	—	—
70	9	E	T	X	C ₂ H ₅	—	Ph	—	—	—
71	9	E	T	X	Ph	—	Ph	—	—	—
72	9	F	T	X	H	—	Ph	—	—	—
73	9	F	T	X	CH ₃	—	Ph	—	—	—
74	9	G	T	X	—	—	Ph	—	—	—
75	9	G	T	Y	—	—	C ₂ H ₅	—	—	—
76	9	H	T	X	H	—	Ph	—	—	—
77	9	H	T	X	CH ₃	—	Ph	—	—	—
78	9	I	T	X	—	—	Ph	—	—	—
79	9	I	T	X	—	—	Ph	—	—	—
80	9	I	T	Y	—	—	OC ₂ H ₅	—	—	—
81	10	N	—	—	—	—	—	—	—	X
82	10	O	—	—	—	—	—	—	—	X
83	10	P	—	—	—	—	—	—	—	X
84	10	Q	—	—	—	—	—	—	—	X
85	10	R	—	—	—	—	—	—	—	X
86	10	T	—	—	—	—	Ph	—	—	X
87	10	T	—	—	—	—	OC ₂ H ₅	—	—	X
88	10	T	—	—	—	—	Ph	—	—	Y
89	11	A	T	—	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	H	—	X
90	11	A	T	—	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	CH ₃	—	X
91	11	B	T	—	CH(CH ₃) ₂	—	Ph	H	—	X
92	11	B	P	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	H	—	X
93	11	D	T	—	CH ₃	—	Ph	—	—	X
94	11	E	T	—	C ₂ H ₅	—	Ph	—	—	X
95	11	F	T	—	CH ₃	—	Ph	—	—	X
96	11	H	T	—	CH ₃	—	Ph	—	—	X
97	11	I	T	—	—	—	Ph	—	—	X
98	12	A	—	—	CH ₃	—	—	H	—	X
99	12	A	—	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	CH ₃	—	X
100	12	B	—	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	H	—	X
101	12	B	—	—	CH(CH ₃) ₂	—	CF ₃	H	—	X
102	12	C	—	—	CH ₃	—	—	—	—	X
103	12	C	—	—	CH(CH ₃) ₂	—	—	—	—	X
104	12	D	—	—	H	—	—	—	—	X
105	12	D	—	—	CH ₃	—	—	—	—	X
106	12	E	—	—	C ₂ H ₅	—	—	—	—	X
107	12	E	—	—	Ph	—	—	—	—	X
108	12	F	—	—	H	—	—	—	—	X
109	12	F	—	—	CH ₃	—	—	—	—	X
110	12	G	—	—	—	—	—	—	—	X
111	12	G	—	—	—	—	—	—	—	X
112	12	H	—	—	H	—	—	—	—	X
113	12	H	—	—	CH ₃	—	—	—	—	X
114	12	I	—	—	—	—	—	—	—	X

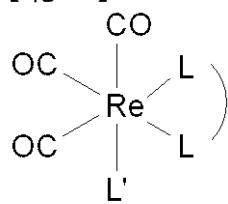
10

20

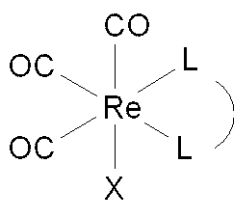
30

40

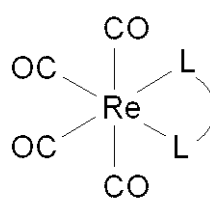
【化 1】



1

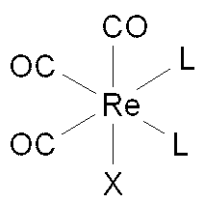


2

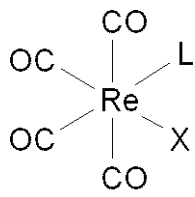


3

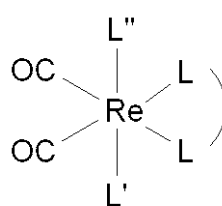
10



4

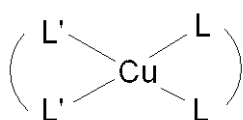


5

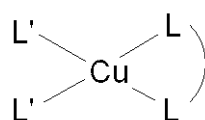


6

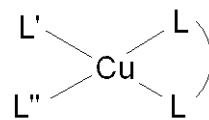
20



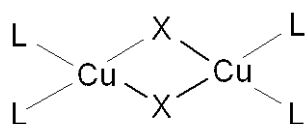
7



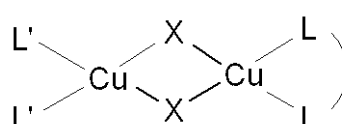
8



9

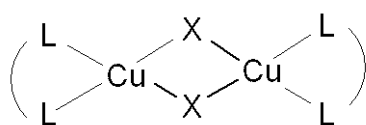


10



11

30

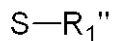
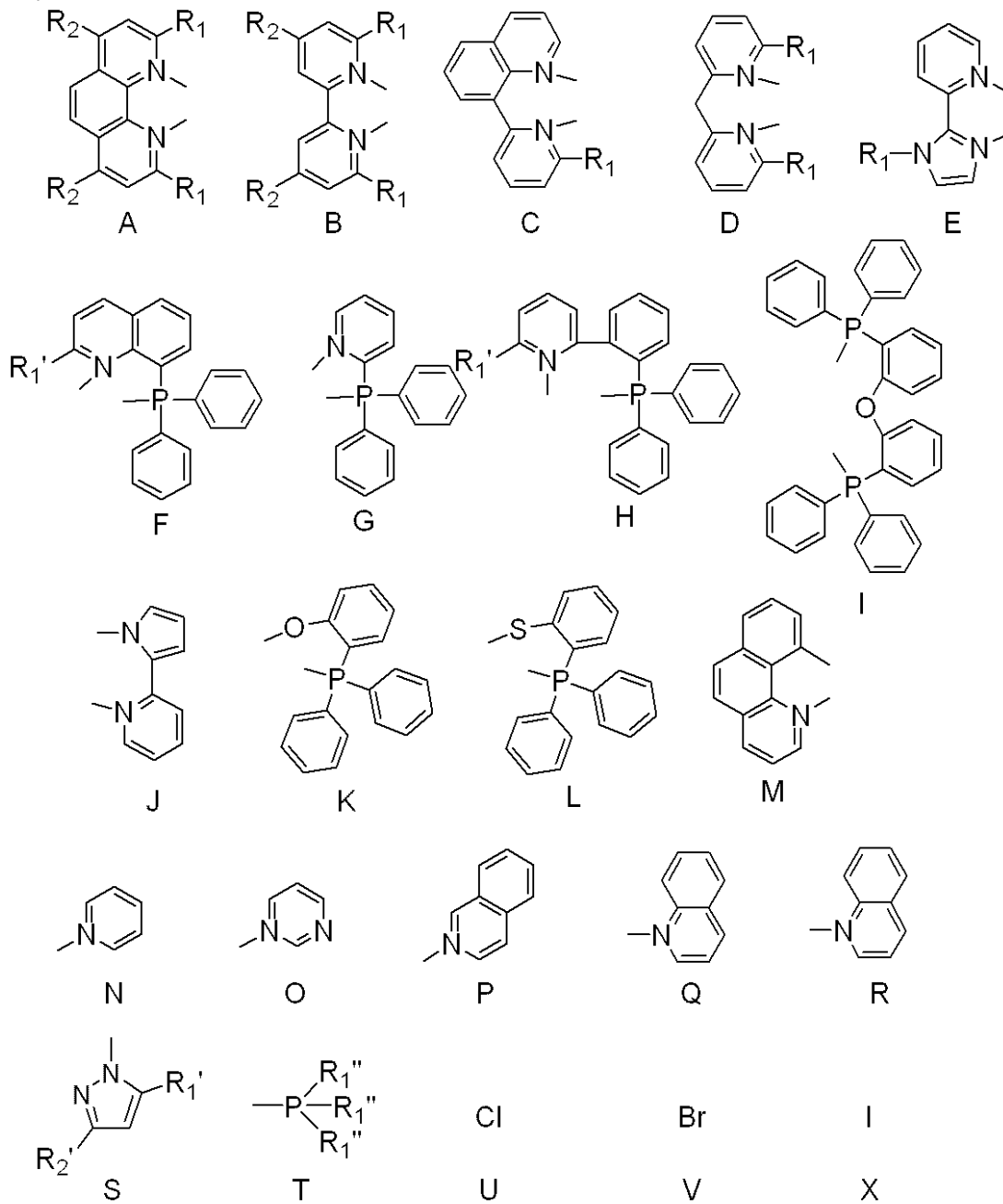


12

40

【 0 0 2 5 】

【化 2】



Y

【 0 0 2 6 】

本発明の有機EL素子は、省エネルギーや高輝度が必要な製品に応用が可能である。応用例としては表示装置・照明装置やプリンターの光源、液晶表示装置のバックライトなどが考えられる。表示装置としては、省エネルギーや高視認性・軽量のフラットパネルディスプレイが可能となる。また、プリンターの光源としては、現在広く用いられているレーザービームプリンターのレーザー光源部を、本発明の有機EL素子に置き換えることができる。独立にアドレスできる素子をアレイ上に配置し、感光ドラムに所望の露光を行うことで、画像形成する。本発明の有機EL素子を用いることで、装置体積を大幅に減少することができる。照明装置やバックライトに関しては、本発明による省エネルギー効果が期待で

きる。

【0027】

ディスプレイへの応用では、アクティブマトリクス方式であるTFT駆動回路を用いて駆動する方式が考えられる。

【0028】

以下、図2～4を参照して、本発明の有機EL素子をアクティブマトリクス方式の表示装置に適用した際のアクティブマトリクス基板について説明する。

【0029】

図2は、本発明の有機EL素子を複数配列し、駆動手段を備えたアクティブマトリクス基板の構成を模式的に示した平面図である。パネルには、画素回路20、走査信号ドライバ21、情報信号ドライバ22、電流供給源23が配置され、それぞれゲート走査線25、情報線26、電流供給線27に接続される。ゲート走査線25と情報線26の交点に配置される画素回路20の構成例を図3に示す。走査信号ドライバー21は、ゲート走査線G1、G2、G3...Gnを順次選択し、これに同期して情報信号ドライバー22から画像信号が印加される。

【0030】

次に画素回路20の動作について説明する。この画素回路20においては、ゲート走査線25に選択信号が印加されると、TFT31がONとなり、容量33に画像信号が供給され、TFT32のゲート電位を決定する。有機EL素子34には、TFT32のゲート電位に応じて、電流供給線27より電流が供給される。TFT32のゲート電位は、TFT31が次に走査選択されるまで容量33に保持されるため、有機EL素子34には次の走査が行われるまで電流が流れ続ける。これにより1フレーム期間常に発光させることが可能となる。

【0031】

図4は、本実施例で用いられるTFTの断面構造の模式図を示した図である。ガラス基板40上にp-Si層44が設けられ、チャンネル43、ドレイン42、ソース41の各領域にはそれぞれ必要な不純物がドーピングされる。この上にゲート絶縁膜48を介してゲート電極45が設けられると共に、上記ドレイン領域42、ソース領域41に接続するドレイン電極46、ソース電極47が形成されている。これらの上に絶縁層49、52及び画素電極としてITO電極50を積層し、コンタクトホールにより、ITO電極50とドレイン電極46が接続される。

【0032】

本発明は、スイッチング素子に特に限定はなく、単結晶シリコン基板やMIM素子、a-Si型等でも容易に応用することができる。

【0033】

上記ITO電極50の上に多層或いは単層の有機化合物層51/陰極層52を順次積層し有機EL表示パネルを得ることができる。本発明の有機EL素子を用いた表示パネルを駆動することにより、良好な画質で、長時間表示にも安定な表示が可能になる。

【実施例】

【0034】

以下に実施例を挙げて本発明を具体的に説明する。

【0035】

(実施例1、比較例1)

図1(b)に示す有機化合物層が3層の有機EL素子を作製した。まず、ガラス基板(透明基板15)上に100nm厚のITO電極(透明電極14)をパターンニングして、対向する電極面積が3mm²になるようにした。そのITO電極基板上に、以下の有機化合物層と電極層を10⁻⁴Paの真空チャンバー内で抵抗加熱による真空蒸着し、連続成膜した。比較例として有機化合物層2についてCBP(4,4'-N,N'-ジカルバゾール-ビフェニル)をドーピングしない系も作製した。

有機化合物層1(ホール輸送層13)(40nm):TFB4

10

20

30

40

50

有機化合物層 2 (発光層 1 2) (20 nm) : 有機化合物 4 + C B P (質量比 = 70 : 30)

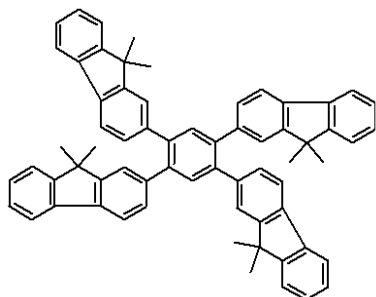
有機化合物層 3 (電子輸送層 1 6) (50 nm) : B p h e n

金属電極層 1 (1 nm) : K F

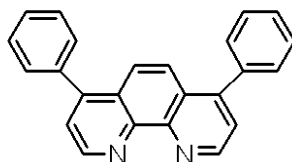
金属電極層 2 (100 nm) : A l

【0036】

【化3】



TFB4



Bphen

10

【0037】

本例で用いた有機化合物 4 の発光波長は固体状態では 515 nm、トルエン溶液中では 561 nm である。図 5 にそれぞれの発光波長スペクトルを示す。

【0038】

有機 EL 素子の特性は、電圧 - 電流特性をヒューレッドパッカー社製、微小電流計 4140 B で測定し、発光輝度は、トプコン社製 BM7 で測定した。図 6 に電圧 - 電流特性を、図 7 に電流 - 発光輝度特性を、図 8 に電圧 - 発光輝度特性を、図 9 に発光輝度 - 発光効率特性を、図 10 に実施例 1 (図中白丸)、比較例 1 (図中黒丸) のそれぞれの素子の発光波長スペクトルを示す。

20

【0039】

その結果、C B P を 30 質量% 加えることによって発光効率が向上し、また、発光波長はほとんど変化しないことがわかった。

【0040】

この結果より、固体状態での発光波長が溶液中での発光波長より短い有機化合物は発光層が 100% 濃度においても発光することが可能ではあるが、導電性材料を少量ドーピングすることによって発光波長をほぼ維持したまま発光効率を向上させることがわかった。

30

【0041】

(実施例 2)

縦 75 mm、横 75 mm、厚さ 1.1 mm のガラス基板上に透明電極 (陽極側) として約 100 nm 厚の ITO 膜をスパッタ法にて形成後、単純マトリクス電極としてライン/スペース = 100 μm / 40 μm の間隔で 100 ラインをパターンニングした。次に、実施例 1 と同様の条件で 3 層からなる有機化合物層を作成した。

【0042】

続いて、マスク蒸着にて、ライン/スペース = 100 μm / 40 μm で 100 ラインの金属電極を ITO 電極に直交するように真空度 2.66×10^{-3} Pa の条件下で真空蒸着法にて成膜した。金属電極は K F を膜厚 1 nm、続いて A l を 150 nm で形成した。

40

【0043】

この 100 × 100 の単純マトリクス型有機 EL 素子の構成を図 10 に模式的に示す。図中、111 はガラス基板、112 は透明電極、113 は有機化合物層、114 は金属電極である。当該素子を窒素雰囲気下で満たしたグローブボックス中にて図 12 のような 10 V の走査信号、±3 V の情報信号によって、7 V ~ 13 V の間で、単純マトリクス駆動をおこなった。フレーム周波数 30 Hz でインターレス駆動したところ、滑らかな動画像が確認できた。

50

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 4 】

【図 1】本発明の有機 E L 素子の構成例を示す断面模式図である。

【図 2】本発明の有機 E L 素子の他の構成例を示す断面模式図である。

【図 3】本発明の有機 E L 素子を用いたアクティブマトリクス基板の構成を示す平面模式図である。

【図 4】図 3 の画素回路の等価回路を示す図である。

【図 5】実施例 1 及び比較例 1 で用いた有機化合物の発光波長スペクトルである。

【図 6】実施例 1 及び比較例 1 の有機 E L 素子の電圧 - 電流特性を示す図である。

【図 7】実施例 1 及び比較例 1 の有機 E L 素子の電流 - 発光輝度特性を示す図である。

10

【図 8】実施例 1 及び比較例 1 の有機 E L 素子の電圧 - 発光輝度特性を示す図である。

【図 9】実施例 1 及び比較例 1 の有機 E L 素子の発光輝度 - 発光効率特性を示す図である。

【図 10】実施例 1 及び比較例 1 の有機 E L 素子の発光波長スペクトルである。

【図 11】実施例 2 の積層構成を示す模式図である。

【図 12】実施例 2 で用いた駆動波形図である。

【符号の説明】

【 0 0 4 5 】

1 1 金属電極

1 2 発光層

20

1 3 ホール輸送層

1 4 透明電極

1 5 透明基板

1 6 電子輸送層

2 0 画素回路

2 1 走査信号ドライバ

2 2 情報信号ドライバ

2 3 電流供給源

2 5 ゲート走査線

2 6 情報線

30

2 7 電流供給線

3 1 , 3 2 T F T

3 3 容量

3 4 有機 E L 素子

3 5 アノード

4 0 ガラス基板

4 1 ソース領域

4 2 ドレイン領域

4 3 チャネル領域

4 4 p - S i 層

40

4 5 ゲート電極

4 6 ドレイン電極

4 7 ソース電極

4 8 ゲート絶縁膜

4 9 , 5 2 , 5 3 絶縁層

5 0 I T O 電極

5 1 有機化合物層

5 2 陰極層

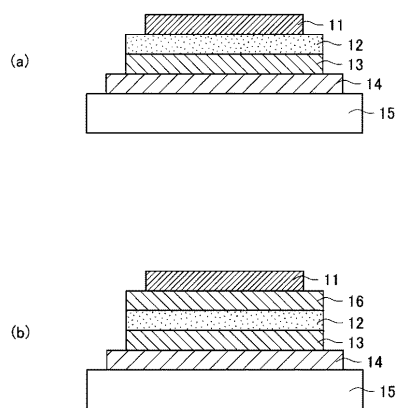
1 1 1 ガラス基板

1 1 2 透明電極

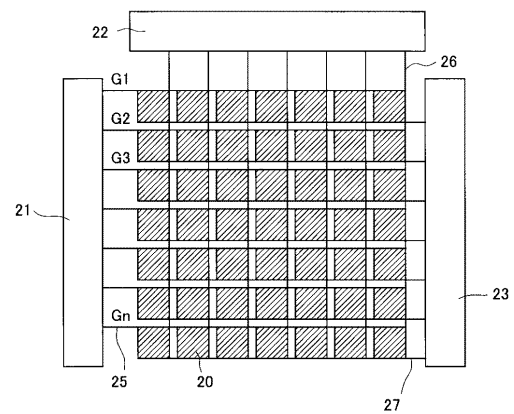
50

- 1 1 3 有機化合物層
1 1 4 金属電極

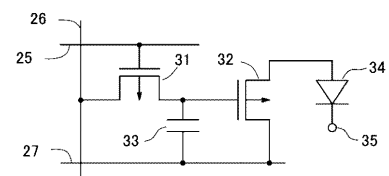
【図 1】



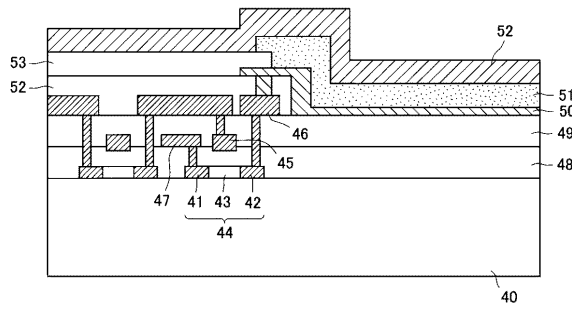
【図 2】



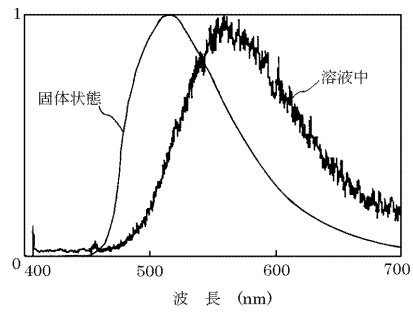
【図 3】



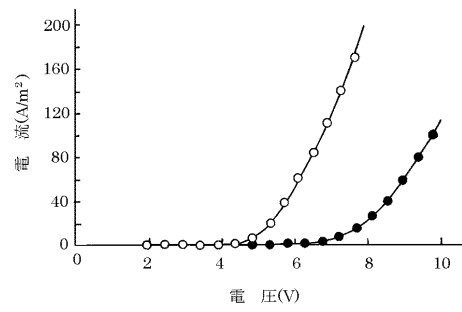
【図4】



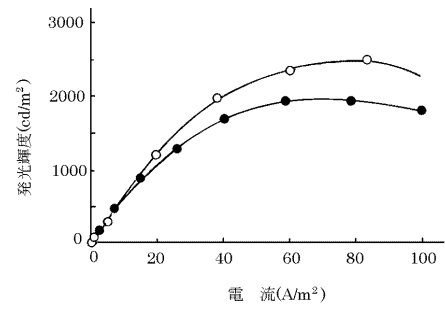
【図5】



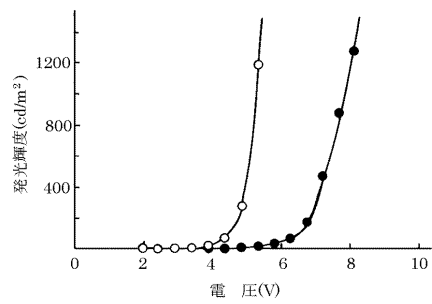
【図6】



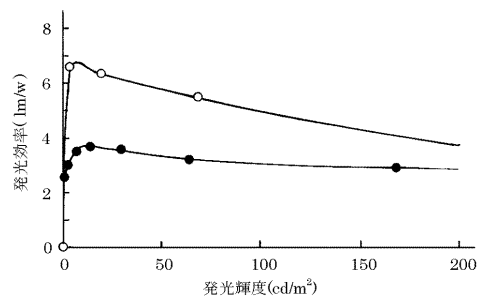
【図7】



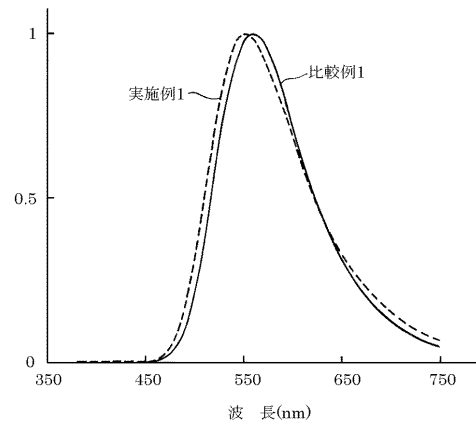
【図8】



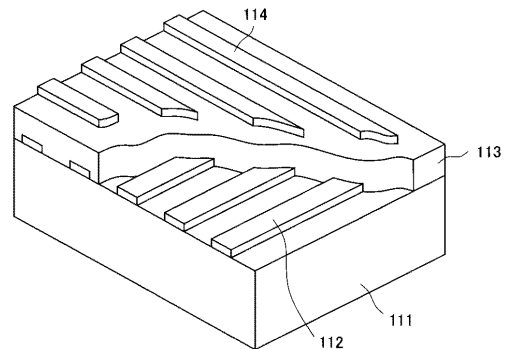
【図9】



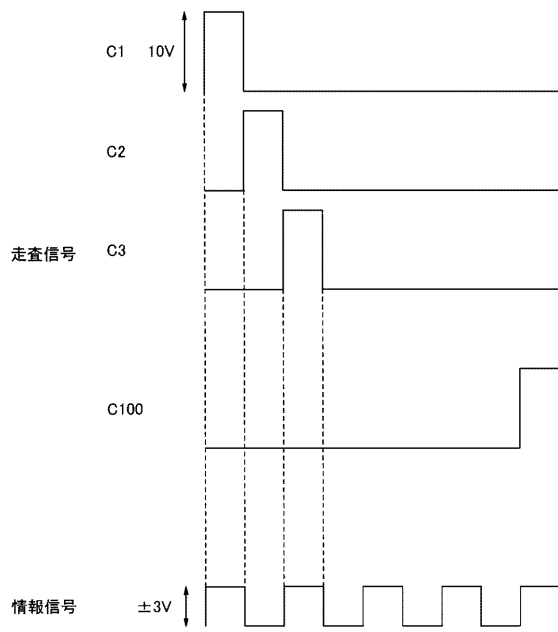
【図10】



【図11】



【図 1 2】



フロントページの続き

- (72)発明者 滝口 隆雄
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
- (72)発明者 坪山 明
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
- (72)発明者 井川 悟史
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
- (72)発明者 古郡 学
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
- Fターム(参考) 3K007 AB03 AB05 AB11 DB03 FA01

专利名称(译)	<无法获取翻译>		
公开(公告)号	JP2006114663A5	公开(公告)日	2007-01-18
申请号	JP2004299928	申请日	2004-10-14
[标]申请(专利权)人(译)	佳能株式会社		
申请(专利权)人(译)	佳能公司		
[标]发明人	鎌谷 淳 岡田 伸二郎 滝口 隆雄 坪山 明 井川 悟史 古郡 学		
发明人	鎌谷 淳 岡田 伸二郎 滝口 隆雄 坪山 明 井川 悟史 古郡 学		
IPC分类号	H01L51/50 C09K11/06		
CPC分类号	H01L51/0077 C09K11/06 C09K2211/1011 C09K2211/1022 C09K2211/1029 C09K2211/1044 C09K2211/188 H01L27/3244 H01L51/0058 H01L51/0062 H01L51/0072 H01L51/5012 H05B33/14		
FI分类号	H05B33/14.B C09K11/06.660		
F-TERM分类号	3K007/AB03 3K007/AB05 3K007/AB11 3K007/DB03 3K007/FA01 3K107/AA01 3K107/BB01 3K107/BB02 3K107/BB03 3K107/BB04 3K107/CC04 3K107/CC21 3K107/CC31 3K107/CC45 3K107/DD53 3K107/DD64 3K107/DD67 3K107/FF13 3K107/FF14		
代理人(译)	渡边 圭佑 山口 芳広		
其他公开文献	JP2006114663A JP4328704B2		

摘要(译)

提供了一种使用新型发光材料的有机电致发光器件。 解决方案：使用具有比溶液中的发射波长更短波长的单一状态的发光波长的有机化合物作为发光材料，并且将导电材料添加到发光材料中，使得发光层中的含量低于发光材料的含量。通过掺杂有性材料形成发光层，并且通过将其夹在电极之间来构成该器件。 【选择图】无